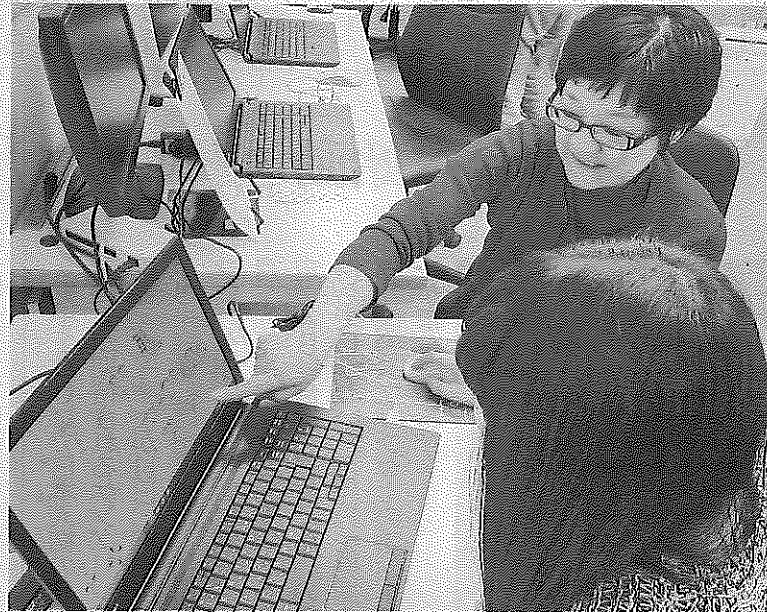


障害ある中高生 自立した生活を

# パソコン習得 就労の素地に



障害がある中高生にパソコンの技能を教える札幌チャレンジの講師

将来的に自立した生活を目標として、障害がある中高生が技術を身につける新たな場ができた。障害者の就労を支援するNPO法人「札幌チャレンジ」(札幌市北区)は4月から、さまざまなパソコン技能の習得によって就職につなげる「キャリアデザインセンター」を開設し、注目を集めている。

(松本創一)

## 札幌のNPO「キャリアアセンタ」開設

「ロケットの画像を画面の上の方に配置して。空に飛び立つようなアニメーションができるよ」

開設を前にした3月下旬に開かれた体験講習会で、札幌のパソコン講師、鈴木浩子さん(55)がそう説明した。

重い心臓病があり特別支援学校に通う女子高生(17)は、真剣な表情でパソコン画面に向かい、マウスを動かす。講習後、「写真や画像を加工する技術を学び、デザインの仕事に就きたい」と力強く語った。キャリアデザインセンターは、放課後や夏休みなどの長期休みに障害がある予りが過半数の「放課後等アイサービス」として市などから補助を受け

ている。放課後等アイサービスは小学生らの居場所を提供する例が多いが、札幌には中学生が将来的に自立する力を身につけるためのパソコン技能習得に力点を置く。

加納尚明理事長は「それぞれが自分のやりたいことを目指し、一生懸命に学ぶ場になり、塾と部活を足して2で割ったような所だと考えてほしい」と語る。

授業は週2回で1回50分。利用者3〜4人ごとに講師が1人つき、それぞれの習熟度に合わせた授業を行う。遊びながらプログラミングの基礎を学んだり、表計算や文書作成など基本ソフトの使い方を覚えたりする。画像処理ソフト

の利用やデータ入力など実際の仕事に近いことも体験できる。講師らとの交流を通して、社会人として自立するためのコミュニケーション能力も身につけられるようにする。

市町村が発行するアイサービスを利用するための受給者証を取得すれば、利用者は1割負担(1日千円程度)でサービスを受けられる。3月27日〜4月5日に行われた体験講習には25人が参加。9人が登録し、講習が実際に始まる17日までにさらに申し込みが増える見込みという。

パソコン技能を身につければ、障害者向けの事業所や一般企業での就労の機会も広がる。札幌は、パソコンを使ったデータ入力やホームページ作成などを企業から受注して障害者を雇用しているほか、一般企業への就職も支援している。キャリアデザインセンターの利用者は、こうした支援を受けやすくなる。

札幌圏の企業のうち、障害者の雇用率が法定の2%を超えている企業は約半数。札幌学院大の「通論教授(特別支援教育論)」は「札幌の取り組みは、障害者が自分を見つめ、社会の中で自分ができることを認識する機会にもなり、一般企業への就職を増やしていく素地になるだろう」とみている。

